

中山間地域の「地方版総合戦略」:

岡山県鏡野町におけるケーススタディ

法政大学地域研究センター客員研究員 山本 祐子

法政大学大学院政策創造研究科 岡本 義行

要旨

全国の自治体では、人口減少克服と地方創生を試みる戦略が策定されている。国は具体的に、①「東京一極集中」の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決、の3つの目標を掲げている。しかし、過疎化が進む地域の住民にとって、これらの目標の実現は困難であるように感じら

れている。それは、多くの学校の統廃合や市町村合併が進む地域において、出生率の上昇は非現実的に思えるからである。本稿では、「地方版総合戦略」の策定にあたり実施した住民意向調査の結果を報告する。

キーワード: 結婚、育児、定住、イノベーション

Local comprehensive strategy in mid-mountain area : a case of Kagamino, Okayama

Hosei University Center for Regional Research, Visiting Fellow

Hiroko Yamamoto

Hosei Graduate School of Regional Policy Design

Yoshiyuki Okamoto

Abstract

Local governments in Japan attempt to overcome population decline and vitalize local economy. The national government concretely set the following goals: to redress the population concentration in Tokyo, to meet young people's hope such as getting jobs, marriage, and having children, and to solve local issues according to the local characteristics. However, inhabitants in areas

with declining population feel difficulty to bring these goals into reality because rising birth rate in area where a lot of schools are closed down and municipal merger is progressing does not sound realistic for them. We will report inhabitants' impression on local comprehensive strategy.

Keyword: marriage, child care, settlement, innovation

I. 課題

地方自治体は、国が目指す「まち・ひと・しごと創生」を受けて、「地方人口ビジョン」と「地方版総合戦略」を策定した。

地方人口ビジョンでは、地域の人口動向と将来人口推計を分析して、中長期の将来展望を描いた。描いた推計は、社人研の推計を下回ることはなく、その多くは国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という）の推計より上のラインにある。

地方版総合戦略は、このような地方版人口ビジョンを見据えた上で、明確な政策目標・施策のビジョンを立

て、KPI（重要業績評価指標）に向けて推進する。そして、その施策の中身は国の目標である、①「東京一極集中」の是正、②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現、③地域の特性に即した地域課題の解決、が求められている。また、施策には県や広域連携を行っている市町村との調整が必要であり、かつ地域の特色を出した地域資源の活用が課せられている。

しかし、この戦略の主役である住民の反応は薄い。日本が人口減少に転じて約10年であるが、地域によっては、人口減少が始まって半世紀以上が経過している。こうした地域では若者の大半が故郷を去り、先祖から受け継いだ耕作地や山林を生業としなくなって久しい。人口

減少や高齢化に不安を持ちつつも、何らかの策を講じてそこに歯止めをかける、という発想は無かった。

国の目標と住民の狭間で苦戦しているのが、地方自治体である。特に、過疎化の進展している地域では、農林水産業や製造業を中心とした産業構造にある地域が多く、これらの産業を取り巻く環境は厳しい状況である。しかし、住民との合意形成のもとに、地域資源を生かした新たな産業の創出が求められている。また、少子・高齢化の進展によって集落機能が低下しており、生活を維持するための基盤整備と、それにともなうコミュニティの再編が必要となっている。

本稿では、地方自治体が地方版総合戦略を作成するにあたって実施した住民へのアンケート調査結果を報告する。事例地は岡山県鏡野町とした。鏡野町を選出した理由は、中山間地域に位置する過疎地域であること、調査協力が得られたことの二点である。

Ⅱ．調査方法

鏡野町で実施したアンケート調査および聞き取り調査結果の概要は以下のとおりである。

国が示している「地方版総合戦略」の柱は、①地方における安定した雇用の創出、②地方への新しいひとの流れをつくる、③若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる、④時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する、の4点である。そこで、アンケート調査¹⁾ではこの4点をふまえた質問内容とした。アンケートの概要および質問内容は、下記のとおりである（表1）。

表1 アンケートの概要

実施日	平成27年6月
質問内容	①属性 ②雇用 ③生活環境 ④結婚・出産・子育て ④定住・移住
対象者	20歳から60歳未満の住民1,000名を無作為に抽出
配布・回収方法	郵送法
回収率	34.5%（回収数:345件）

聞き取り調査の対象者は、12自治区²⁾の「まちづくり協議会」会員、農業関係者、林業関係者、子育て中の母親、子育て支援関係者、地元企業、商工会、NPO 関

係者、計200名である。また、調査内容は、①地域の産業、②地域の雇用、③地域のコミュニティ、④結婚・子育て・育児、⑤定住・移住、⑥生活環境、などである。

Ⅲ．岡山県鏡野町の概要

1. 鏡野町の地勢、気候

鏡野町は、岡山県の北部に位置し、北は鳥取県、東と南は津山市、西は真庭市に接する（図1）。人口は13,704人、世帯数は5,642世帯（2015年5月現在）である。2005年（平成17）に旧富村、旧奥津町、旧上齋原村、旧鏡野町の2町2村が合併してできた町である。合併後の町の面積は419.69haであり、うち林野面積が88%を占めるため、中山間地域と言える。

地勢は、中国山地南面傾斜地で準平地である。気候は内陸型気候で、夏冬の温度差が大きい。年平均気温は12.0℃、年間降水量は1,842mmであるが、北部では積雪量が多く、2mに達する地域がある。



図1 鏡野町の位置

出典：Yahoo 地図 筆者加筆

2. 鏡野町の人口の推移

鏡野町のピーク時の人口は、26,126人（1950年）である。その後は、日本の高度経済成長の進展にともない、多少の増減はあるものの減少の一途を辿る。そして、2000年代に入ると15,000人を下回って行く。社人研の推計によれば、2015年以降も減少が続いて、2035年以降は10,000人を下回る（図2）。また、町の高齢化率は、2010年（国勢調査）で34.5%である。

¹⁾ 鏡野町と法政大学地域研究センターの協同研究により、住民へのアンケート調査（平成27年6月）を実施した。

²⁾ 12地区は、旧町村単位のコミュニティである。

3. 鏡野町の産業

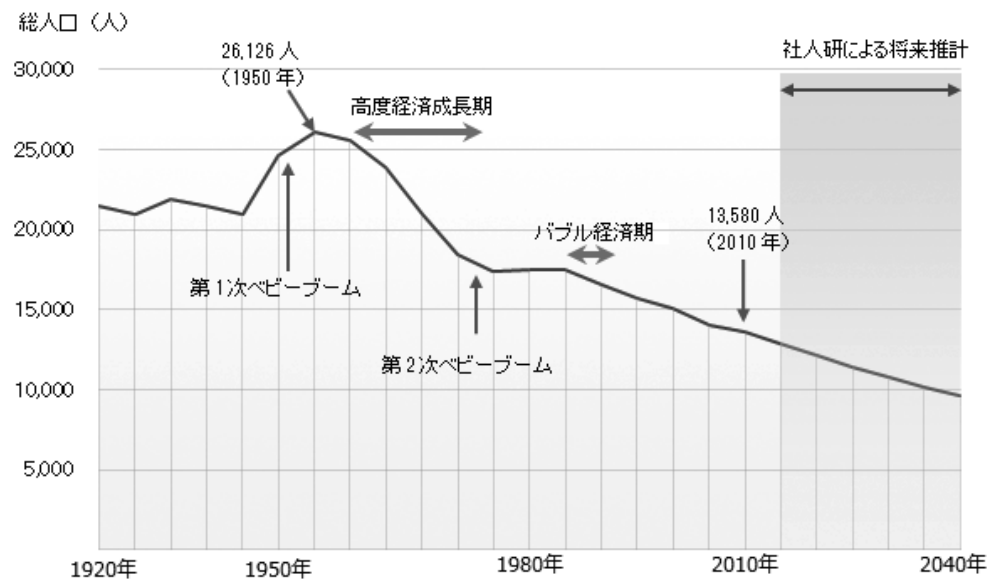
産業人口が最も多いのは、男性は「製造業」、女性は「医療・福祉」である。次いで多いのは、男性は「卸売業・小売業」、「建設業」、女性は「卸売業・小売業」、「製造業」である。

産業別特化係数（町のX産業の就業者比率／全国のX産業の就業者比率）では、男女ともに農業と林業が高い。次いで高いのが、「複合サービス事業」、「鉱業・採石業・砂利採取業」である。

4. 広域連携

近年、近隣自治体との連携により政策が実施されるようになってきている。鏡野町は津山圏域（津山市、勝央町、奈義町、鏡野町、美咲町、久米南町）として、共同で事業や活動を行っている。

津山圏域の特徴は過疎地域が多い点にある。勝央町以外はいずれも過疎自治体（津山市：一部過疎を含む）であり、人口減少・高齢化が進展している。



注：1920年～2010年の総人口は「国勢調査」より作成（2005年以前の人口は、合併前の町村の合算）、2015年以降の総人口は社人研推計値より作成。

図2 鏡野町総人口の推移と将来推計

出典：鏡野町

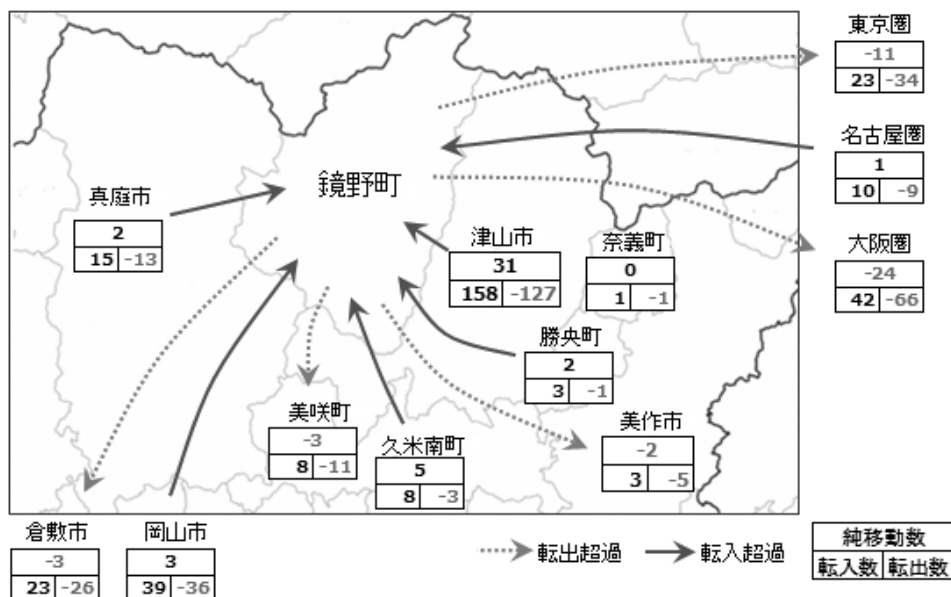


図3 周辺市町村、三大都市圏等との人口移動

出典：鏡野町

5. 人口移動（転入・転出）

転入・転出では、津山市と出入が最も多い。津山市からの転入超過数は35人（2013年）である。

次いで転入・転出が多いのは、大阪圏である。大阪圏は年度により、転入超過となる年もある。2010年と2011年は、若干数ではあるが転入超過であった。

IV. アンケート調査結果

1. 結婚

(1) 結婚の希望

結婚の希望は、男女共に高い。ただし、迷っている者が多い。

「結婚をしたくない」と明確に答えている者は、男女共に低い。また、結婚の意思がない者は、男性より女性の方に多かった（図4）。

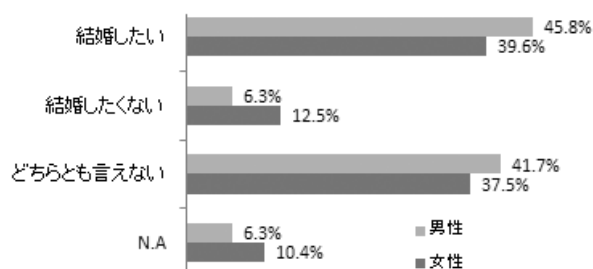
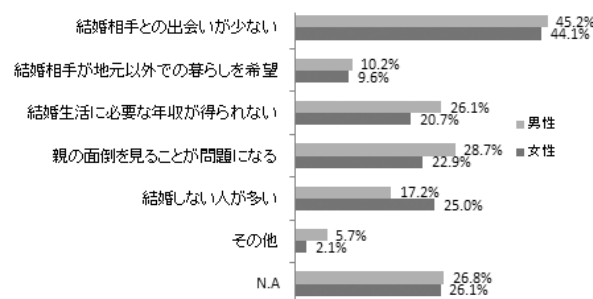


図4 結婚希望（n = 男性 48、女性 48）

(2) 地域の結婚事情

結婚における最大の課題は、出会いの機会が少ないことである。地域の結婚事情についての回答で、最も高かったのは男女ともに「結婚相手との出会いがない」である。次いで、男性は「親の面倒を見ることが問題になる」、「結婚生活に必要な年収が得られない」の順である。女性は、「結婚しない人が多い」、「親の面倒を見ることが問題になる」であった（図5）。



注：複数回答

図5 結婚の課題（n = 男性 157、女性 188）

(3) 結婚のための活動

女性は、男性より婚活（結婚のための活動）を好まない傾向にある。一方の男性は、「活用したくない」が2割強であり、迷っている者が6割を超えていた（図6）。

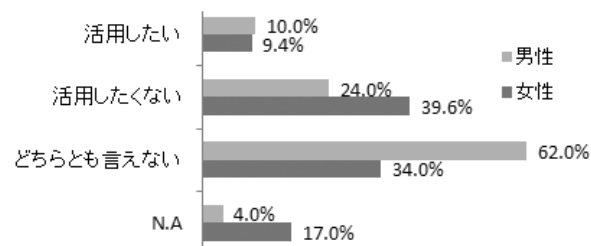
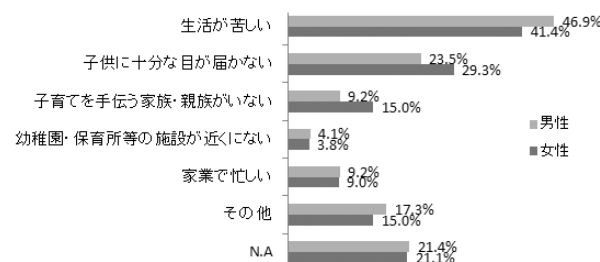


図6 婚活希望（n = 男性 48、女性 48）

2. 子育て・育児

(1) 子育ての課題

子育てにおける最大の課題は、男女共に金銭問題である。次いで、「子供に十分な目が届かない」である（図7）。



注：複数回答

図7 子育て課題（n = 男性 98、女性 133）

(2) 夫の育児協力時間

男性（夫）の育児協力時間（一日平均時間）は非常に少ない。半数は、育児協力時間が一時間未満である。また、協力時間には、男女の認識の差があるようだ。男性の育児協力時間の「一時間台」は24.7%であるが、女性側の回答は16.5%である（図8）。

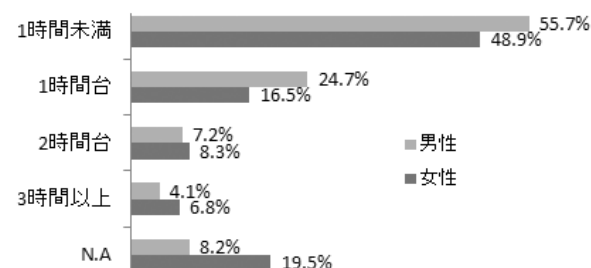


図8 子育て協力時間（n = 男性 97、女性 133）

以上から、夫が思うほど妻達には手伝ってくれているという認識が無い、と推察される。

(3) 夫の家事手伝い時間

約7割が、「一時間未満」と回答している。よって、家事手伝い時間は、育児手伝い時間以上に少ない（図9）。

育児手伝い時間同様に、家事手伝い時間にも妻と夫の認識に差がある。男性の家事協力時間「一時間台」は20%であるが、女性のその半数（11.9%）であることから、男女の認識の違いがあった。

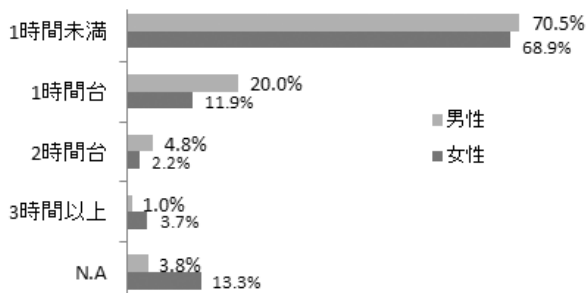


図9 子育て協力時間（n = 男性 105、女性 135）

(4) 子供を持たない理由

子供を持たない理由は、男性の上位3位は、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」、「高年齢で生むのはいやだから」、「ほしいけれどもできないから」であった。

一方、女性の上位3位は、「健康上の理由から」「高年齢で生むのはいやだから」「ほしいけれどもできないから／子育てや教育にお金がかかりすぎるから（3位は同数）」であった。

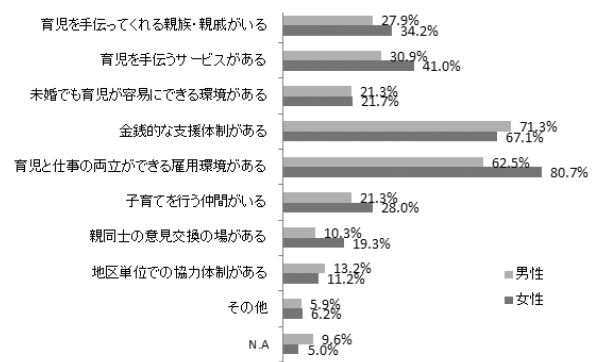
(5) どのような環境があれば子供の数は増加するのか

子供の数の増加には、育児と仕事を両立できる雇用環境が重要なポイントになる、と推察される。

どのような環境があれば子供の数が増加すると思うかについて、男性の上位3位は、「金銭的な支援体制がある」(71.3%)、「育児と仕事が両立できる雇用環境がある」(62.5%)、「育児を手伝うサービスがある」(30.9%)である。

一方の女性上位3位は、「育児と仕事が両立できる雇用環境がある」(80.7%)、「金銭的な支援体制がある」(67.1%)、「育児を手伝うサービスがある」(41.0%)である（図10）。

以上から、「育児と仕事が両立できる雇用環境」が整えば出生率は高くなる、と示唆される。



注：複数回答

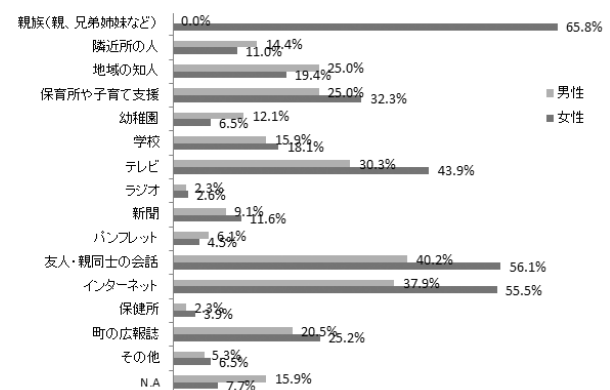
図10 子供数が増加する環境（n = 男性 136、女性 161）

(6) 子育ての情報はどこから得ているのか

子育ての情報元は、男女により違いがあった。

女性は、「親族」(65.8%)からの情報取得が最も多く、次いで、「友人・親同士の会話」、「インターネット」、「テレビ」の順である。

一方の男性上位3位は、「友人・親同士の会話」(40.2%)、「インターネット」(37.9%)、「テレビ」(30.3%)である（図11）。



注：複数回答

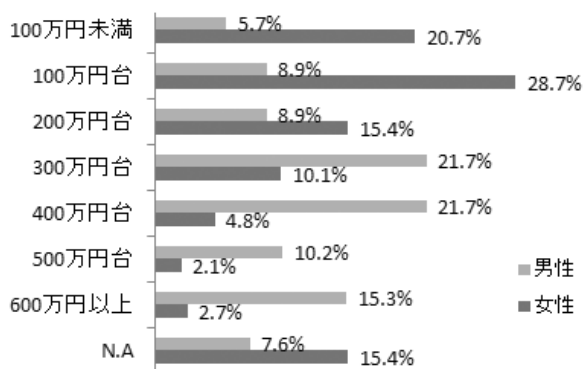
図11 子育ての情報元（n = 男性 132、女性 155）

2. 生活基盤と雇用環境

(1) 年収

年収は、男女で差がある。

男性は「300万台」と「400万台」で約4割である。一方の女性は、「100万台」と「100万未満」で半数を占めている。また、女性は、400万台以上の年収者は非常に少ない。さらに、600万台以上になると、男性は15.3%であるが、女性はわずか2.7%である（図12）。



注：複数回答

図12 年収（n = 男性 157、女性 188）

(2) 家族（夫婦と子供二人）の必要な年収

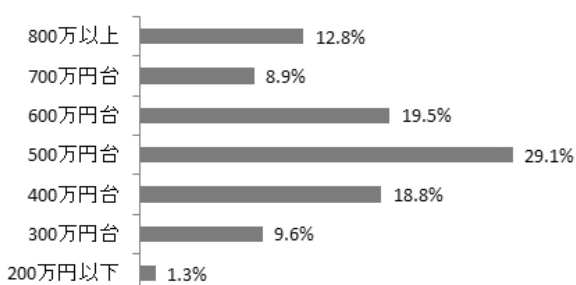
子育てに必要な年収については、厳しいと考える者が多い。

鏡野町で、「夫婦2人暮らし、子供2人（中学生まで）でどれくらいの年収（税込）があれば生活できると思うか」という質問を行った。

結果は、「500万円台」(29.1%) が最も多かった。次いで「600万円」であった（図13）。

現状、男性で500万円以上の年収者は、25.5%である（図12）。女性の年収は100万円台と100万円未満で半数を占めている。また、夫婦共働きでも500万円以上の年収を得ることができる者は半数以下である。

以上から、子育てに必要なと思う年収は得られていない者が多い、と示唆される。



n = 345

図13 4人家族（夫婦、子供2人）に必要な年収

(3) 兼業農家の年収

かつての中山間地域では、農林業を営んでいた家が多い。鏡野町でも農林業を営んでいた家が多いが、その多くは兼業農家である。それでは、兼業農家の収入はどれくらいあるのだろうか。

アンケート調査では、収入がある家は少なく、多くは

自家消費であった。農業収入の大半は100万円未満であり、100万円以上の兼業農家はわずかであった（図14）。

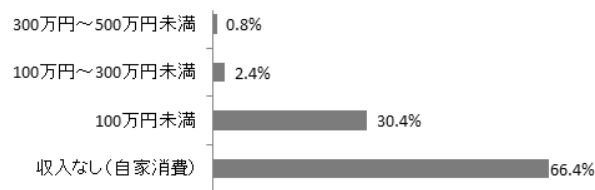


図14 兼業農家の農業収入（n=125）

(4) 生活環境で改善して欲しいこと

生活改善点の要望は、性別による差は少なかったが、居住地域や年収による差があった。

男性の上位3位は、「良い仕事が見つからない」、「医療体制が不十分」である。一方の女性は、上位2位は男性と同様であるが、3位が「喫茶店などの交流拠点」であった。

地域差があった項目は、「買い物の不便」である。中間地域に在る「旧A町」以外の山間地域（旧B町、旧C村、旧D村）では、「買い物が不便である」の割合が高くなっている。地域の中心地域である「旧A町」には大型スーパーがあるが、それ以外の地域には無い。また、この大型スーパーまでは一定の距離があり、バスか自家用車の交通手段が必要である。

年収により差があった点は、600万円以上の年収で高かった、「文化・芸術に親しむ機会が少ない」と「高級なレストラン・居酒屋」である（表2）。

(5) 必要な施設

山間地域はコンビニを必要としている。山間地域にある旧B町と旧D村の1位は、「コンビニ」であり、旧C村でも3位に入っている。

中間地域にある旧A町の上位1位は、「飲食店」である。

全ての地域の必要としている施設は、「金融機関のATM」であった（表3）。

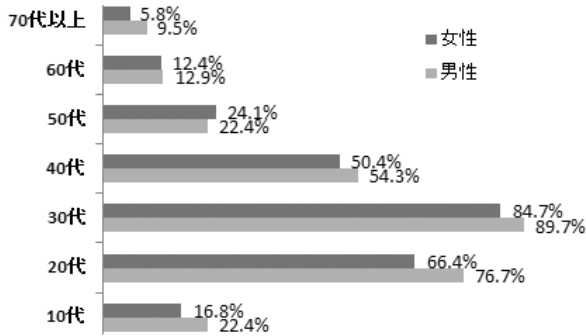
表3 居住地域別必要な施設上位3位

	1位	2位	3位
旧A町	飲食店	公園	金融機関ATM
旧B町	コンビニ	ガソリンスタンド	金融機関ATM
旧C村	商店	病院	小・中学校、郵便局、コンビニ
旧D村	コンビニ	金融機関ATM	飲食店、病院

3. 定住・移住

(1) 移住してきて欲しい年代

移住者の受入に関しては、男女共に賛成が多い。移住してきて欲しい年齢については、男女ともに30代が最も多く、次いで20代、40代の順であった（図15）。



注：複数回答

図15 移住者の希望年代 (n = 男性 157、女性 188)

(2) 移住者への支援

町外から移住者へ積極的に支援するか、という質問では、「しない」と回答した者は、わずかであった。男女ともに4割は「する」であり、半数は「どちらともいえない」であった。

4. 産業政策

(1) 重視して欲しい政策

鏡野町の地域活性化として重視して欲しい政策の上位3位は、「企業誘致」、「観光政策」、「農業支援」である（図16）。

年代別の1位は、20代と30代は「観光振興」、40代と50代は「企業誘致」である。

(2) 鏡野町の望ましい産業政策

最も高かったのは、「農業（野菜）」である。次いで、「農業（米作）」、「農業（花卉）」、「製造業」の順である。男女の差は、上位3位にはなかった。

年代別の差はほとんど無く、農業関連の政策が望ましいと考えている者が多かった（図17）。

5. 雇用の場の創出と定住・移住の可能性

(1) 雇用

戦略の中では、雇用の創出が課題となっている。そこで、年代別・性別の希望する雇用の場を検証した。従属変数に年齢および性別、独立変数に雇用関連の質問（表4）を使い決定木分析を行った。

表4 使用した質問一覧（雇用関連）

No	質問	No	質問
1	企業誘致	10	農業（米作）
2	観光振興	11	農業（野菜）
3	人材育成	12	農業（花卉）
4	企業支援	13	農業（その他）
5	農業支援	14	林業
6	林業支援	15	製造業
7	コンサルティング	16	IT産業
8	補助金事業	17	サービス業
9	工業団地の整備		

以下に、決定木の結果を示す。

① 20代男性の雇用

企業誘致は望んでおらず、農業・米作を望む者が多い（図18）。

② 20代女性の雇用

農業・花卉は望んでおらず、観光の振興を望んでいる者が多い（図19）。

③ 30代男性の雇用

補助金事業を望んでいる者が多い（図20）。

④ 30代女性の雇用

農業（野菜）を望む者が多い（図21）。

⑤ 40代男性の雇用

工業団地もしくは人材支援を望む者が多い（図22）。

⑥ 40代女性の雇用

林業支援もしくはIT産業を望む者が多い（図23）。

⑦ 50代男性の雇用

企業誘致を望む傾向にある（図24）。

⑧ 50代女性の雇用

観光の振興や人材育成は望まず、企業誘致を望んでいる者が多い（図25）。

(2) 移住・定住の可能性

(1) 人の流れをつくる

地方版総合戦略では、定住・移住者の増加が課題となっている。そこで、町へ住む理由や動機を検証するために、住民の出身地別の特徴を探ってみた。分析には、

表5 使用した質問一覧（定住・移住関連質問）

No	質問	No	質問
1	家賃が安い	10	介護施設が充実している
2	知り合いが多い	11	近隣住民との交流がある
3	家族・親族が住んでいる	12	家賃が安い
4	自然環境が良い	13	子育て支援がある
5	子育てしやすい	14	温泉がある
6	鏡野町の企業・事業所に就職	15	スポーツ施設がある
7	転勤によって	16	公民館の行事が充実している
8	近隣に親戚や友人が多い	17	地区ごとに自主的な活動がある
9	自然に恵まれている		

決定木を使用した。従属変数に出身地、独立変数に定住・移住関連質問を使った（表5）。

以下に、結果を示す。

- ①鏡野町（旧奥津町 旧上齋原村 旧富村）出身者は、鏡野町に家族や親族が住んでいる者が多い（図26）。
- ②鏡野町の周辺地域（津山市等）出身者は、鏡野町に家族や親族が住んでいる者が多い（図27）。
- ③岡山県（鏡野町、鏡野町周辺域以外）出身者は、共通項はなく多様である（図28）。
- ④岡山県以外の出身者は、町が実施している「子育て支援策」を評価している（図29）。

（3）県外の出身者、移住者が希望する雇用政策

県外出身者および移住者の町は雇用政策について、どのような意向を持っているのか。従属変数に県外および移住者、独立変数に雇用関連質問（表4）を使い、決定木分析を行った。

結果を以下に示す。

県外出身者および移住者は、農業支援を望んでいる者が多かった。また、農業の中でも花卉への支援を望んでおり、企業誘致は望んでいない者が多かった（図30）。

（4）生活課題

生活課題について、従属変数に結婚・定住希望者、独立変数には生活課題、子育ての環境・情報取得関連質問（表5）を使い、決定木分析を行った。

以下に結果を示す。

- ①育児を手伝ってくれる親族や親戚がいる場合は、生活費の課題はないとしている者は少ない。一方、育児を手伝う親族・親戚がいない場合は、「住宅の老朽化」を課題としている者が多かった（図31）。
- ②既婚者で子どもがいない場合は、生活苦や買い物の不便を課題としている者は少ない（図32）。
- ③既婚者で子供がいる場合は、生活苦を課題としている者が多かった（図33）。

V. 住民の意向（聞き取り調査から）

地方版総合戦略の目標である、①結婚、②出産・子育て③雇用・産業、④移住者の受入、に関して聞き取り調査の整理を行った。「表6」が年齢層・性別にまとめた一覧である。

1. 住民への聞き取り調査から

（1）結婚

男女ともに結婚を望みながら、「結婚相手と出会う機会がない」ことを結婚の課題としていた。結婚まで行くには、いかにして相手との出会いの機会をつくるのか、結婚の世話役の復活を望む声が多く、かつての「世話焼きおばさん」の役割を誰がどのようにして担っていくのかが、焦点となっていた。

（2）育児・子育て

仕事と育児の両立を行っている者は、「時間に追われている」という意見が大半を占めていた。また、「親族の手伝い無しには、2人目・3人目の育児は厳しい」、との指摘があった。さらに、子供を育てるには、「金銭面では大学卒業まで、時間的には塾の送迎等で大学進学まで継続する」、しかし、「時短は望んでいない、時短は給与カットに結びつく」、という意見が多かった。

子育て中の専業主婦は、「近隣の子育て仲間（通称：ママ友）との交流を希望しているが、人口減少により同様の環境にある仲間を探すことが問題」と語っている。

（3）雇用・産業

地元の雇用の場には問題が無かったが、マッチングが問題となっていた。特に、若年層は希望する職場がない事を課題としていた。

他方で、地元の産業である農林業の再生を望む意見が多かった。子供に継がせる意思はなく、継続には担い手が問題となっている。また、農業は生産品種によっては生計を立てられる、と述べている次世代の担い手達がいいた。さらに、地域の資源として材木が豊富であることから、材木の活用を望む住民が多かった。

（4）移住者の受入

移住者の増加に対しては、年代・性別問わず前向きに捉えている。問題は、地域住民とのコミュニティであった。新旧住民がいかに互いを理解し合い、共存していくのかが課題であった。

既に外部から移住してきている者達は、多少の不安はあるものの地域に馴染んでおり、地域での暮らしに満足していた。

2. 企業への聞き取り調査から

聞き取り調査で明らかになったことは、地元で正社員の募集をしても人が集まらない、という現状である。

採用条件は難しいものではなく、若年層であれば大半の者は満たしている要件という。それでも集まらない背景には、マッチングの問題とともに人員不足に入ってい

るのではないかと指摘があった。

Ⅵ 中山間地域の「地方版総合戦略」の方向性

調査結果や関係者の意見を資料として、町では地方版総合戦略における方向性を出した。

1. 結婚の方向性

国の目標とする出生率の向上には、まずは住民が希望する結婚を成立させることが重要となる。調査で明らかになった点は、「相手との出会いの機会がない」、であった。そこで、町では出会いの機会を作るために多様な策を講じていくことにした。また、住民から要望が高かった、「結婚世話役」を推進する。

2. 育児・子育ての方向性

地域には依然として、性別役割分担の意識が強く残っているため、男性の家事・育児協力時間は少なかった。また、子育て中の母親が仕事と育児を両立させるには、親族などの手伝いが求められていた。結婚・出産・子育てネットワークの推進等、男性の家事・育児への参加と母親の育児・子育ての軽減の手立ておよび雇用環境の整備を行うことを方針とした。

3. 雇用・産業の方針の方向性

住民の声として多かったのが、「雇用の場はあるが、就きたい職種が少ない」であった。特に、若年層にこの傾向が強かった。このため、町では働く側と雇用者側の雇用環境をマッチングさせるための、労働供給と雇用の安定性を同時に満足させる仕組みを構築していく方針を出した。また、人材育成を実施することで新たな仕事の創出および産業振興と雇用創出の好循環を生み出す環境を整えて行く。さらに、もともとの地域産業の基盤であった農林業や観光産業のイノベーション促進を目指す。

4. 移住者の受入体制

都市部から移住を促すには雇用の場が重要である、との調査結果に基づき、移住者が満足できる仕事の創出を目指す。また、定住するために必要な情報の提供および移住希望者の状況に応じた細やかな対応や支援を推進していく。

これまでの移住者の特徴として、町に「家族・親族が住んでいるから」という理由が多かった。そこで、他出子のUターンや、その知人のIターンを期待した施策を実施していく。

Ⅶ まとめ

鏡野町の総合戦略の策定にあたり実施したアンケート調査および聞き取り調査により、地域の実態と住民の意向が明らかになった。

明らかになった点は、以下のとおりである。

1. 結婚

男女ともに結婚を望みながら、「結婚相手と出会う機会がない」ことが結婚の課題であった。この課題を解決するために、かつて地域で機能していた「結婚の世話役（世話焼きおばさん）」の復活を望む声が多かった。相手との出会いの少なさは、地域のコミュニティの減少や個人化の進展などから起きている、と示唆される。

2. 雇用・産業

雇用の場があるものの、希望する職種がないことが課題となっていた。特に、若年層にこの傾向が強くと、地元から外部へ出て行かざるを得ない、という現状があった。新たな職種の創出が課題ではあるが、他方で人手不足になっているのではないかと（特に若年層）、との指摘があった。こうしたことから、若年層や外部からの移住者の雇用の場の創出には、多様な検証が必要であると推察される。

地元の農業者からは、農業は品種を選べば生計が立つ、との見解があった。また、若年層で農業を希望する者達がいる。こうした現状から、新規就農者の増加には地元農業者の知識と支援が重要ではないかと考えられる。

3. 子育て・育児

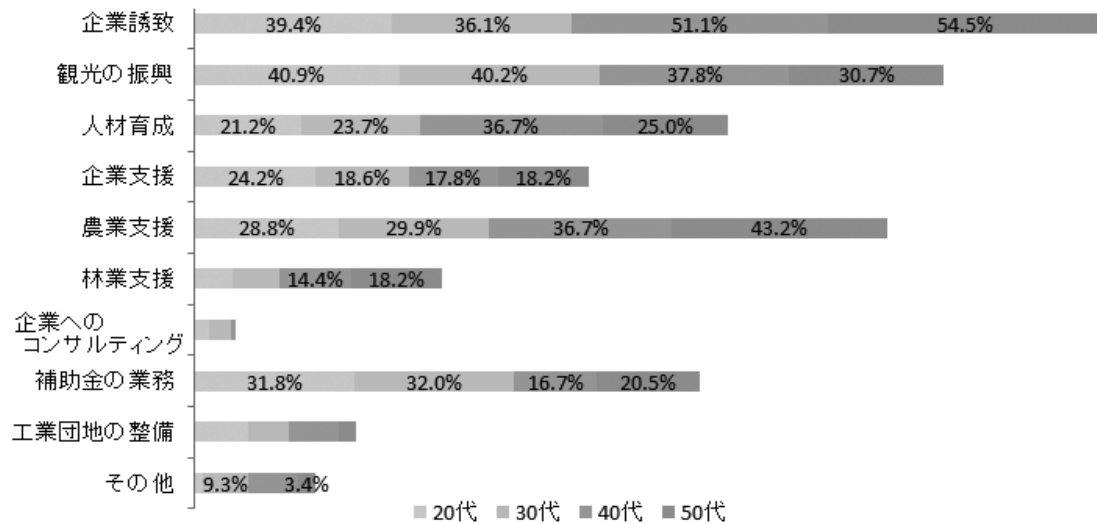
課題は、男性の家事・育児協力時間が少ないことだった。また、子育て中の母親が仕事と育児を両立させるには、親族などの手伝いが求められていた。こうした現状から、男性の家事・育児への参加は、母親の育児の軽減につながり、希望する子供の数を増加させることにも繋がると考えられる。このことは、家庭だけで解決できない問題も含んでいることから、雇用先や地域住民の協力が必要となるだろう。

今後の日本では人手不足が懸念されているため、女性の活躍に期待がかかっている。女性も家庭と仕事の両立を望む者達が多いことから、いかにして国をはじめとして地域や企業等が女性の両立できる仕組みを構築していくかが、出生率の問題と大きく関わってくることが示唆される。

4. 移住者の受け入れ

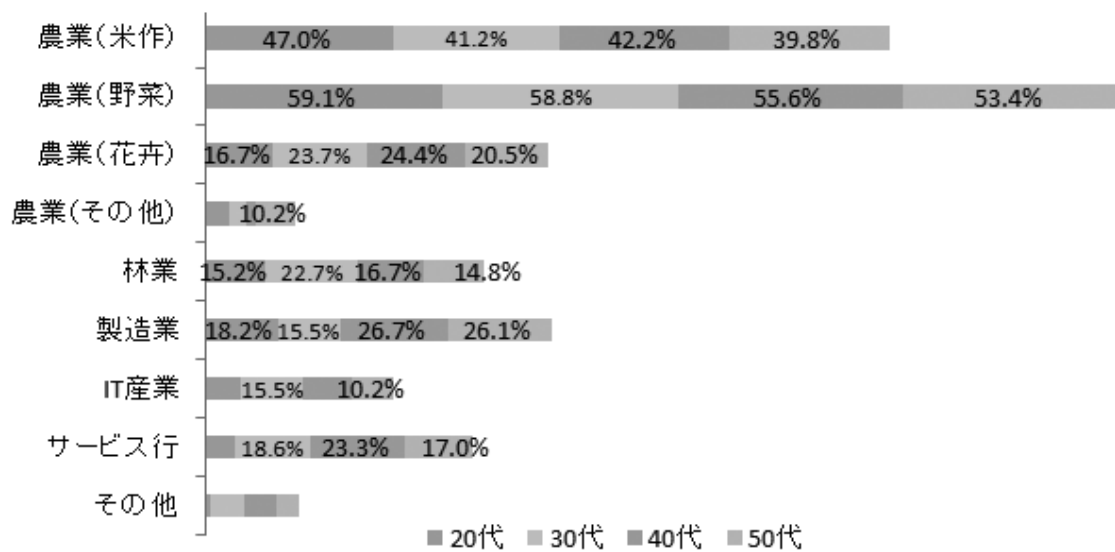
地元住民は外部からの移住者に期待している。特に、地域の農林業の担い手として期待をしている。しかし、雇用の場がなかなか見つからない、という現状がある。

このことは、産業・雇用の推進とも関連することであり、新旧住民が知恵を出し合わせて、いかにして雇用を創出していくのが今後の重要なポイントとなろう。



注：回答は上位3位まで

図16 重視して欲しい政策 (n=345)



注：回答は上位3位まで

図17 地域の望ましい産業政策 (n=345)

表5 使用した質問一覧（生活課題、子育ての環境・情報取得等）

No	質問	No	質問	No	質問
1	レストラン・居酒屋	24	介護施設	46	育児を手伝う親族・親戚がいる
2	喫茶店等交流拠点要望	25	図書館	47	育児を手伝うサービスがある
3	近隣との付き合いが厄介	26	図書館1	48	未婚でも育児が容易な環境がある
4	良い仕事が見つからない	27	公園	49	金銭的な支援体制がある
5	買い物に不便である	28	金融機関	50	育児と仕事両立の雇用環境がある
6	交通に不便である	29	金融機関のATM	51	子育てを行う仲間がいる
7	医療体制が不十分である	30	郵便局	52	親同士の意見交換の場がある
8	福祉が充実していない	31	農協	53	地区単位での協力体制がある
9	子供の教育環境が不十分	32	コンビニ	54	親族・親・兄弟姉妹など
10	文化・芸術に親しむ機会希少	33	病院	55	隣近所の人
11	スポーツの環境不備	34	公民館	56	地域の知人
12	話し相手/相談相手ない	35	ガソリンスタンド	57	保育所や子育て支援
13	買い物に不便である	36	移動販売車	58	幼稚園
14	近隣住民が少なくなった	37	交流施設・お茶のみ場等	59	学校
15	鳥獣被害が増加している	38	活用したい	60	テレビ
16	空き家が増加している	39	活用したくない	61	ラジオ
17	住宅が老朽化している	40	どちらとも言えない	62	新聞
18	住居が狭い	41	生活が苦しい	63	パンフレット
19	保育園	42	子供に十分な目が届かない	64	友人・親同士の会話
20	幼稚園	43	子育てを手伝う家族・親族無	65	インターネット
21	小学校	44	子供を預ける施設が近くにない	66	保健所
22	中学校	45	家業で忙しい	67	町の広報誌
23	商店				

表6 聞き取り調査の年代層・性別一覧

年代	性別	結婚	出産・育児	雇用・産業	移住者の受入
若年層	男性	・出会いの場がない。 ・婚活の機会があれば参加したい。	・多少は手伝っているつもりである。 ・手伝いたい気持ちはあるが、時間がない。		・外部から来ても職探しが課題。 ・地元の生活環境に適合できるかが問題である。 ・子供を育てるには良い自然環境なので、育児には最適の場。 ・同世代の仲間の増加は歓迎。 ・新旧住民の交流が重要。 ・新規就農は容易くはないが、サポートをしてやれば可能性はある。 ・子育て支援を評価しての移住者がいる。 ・学校の児童・生徒数増加には歓迎だが、コミュニティが課題。
	女性	・出会いの場がない。 ・婚活には参加したくない	・夫にも手伝って欲しいと思うが、夫は忙しいので諦めている ・仕事と育児の両立は、時間がなく大変である。 ・時短は給与の減少に繋がるので望まない。 ・子育て支援は助かる。 ・子育て世代で交流会をやりたいが、人口減少で人がいない。 ・生徒数減少で、子供の社会化が心配。	・雇用の場はあるが、就きたい職種が無い ・地元や近隣の町では賃金が安い。 ・農業は品種を選べば生計が立つ。	
中年	男性	・出会いの場がない。 ・結婚しない者が多い。 ・未婚でも生活に不自由はない。	・子育て、育児にはお金がかかる ・大学までの教育資金が大変。 ・子供の塾への送迎が大変（公共交通では時間的に厳しい）。	・雇用の場を増やす必要がある。 ・子供には、地元に限定せず、希望する場所で好きな職種に就かせたい。 ・農地からアパート建設の転換が増加。 ・雇用の場はあるが、マッチングが問題。	・新旧住民のコミュニティが焦点。 ・集落でのつき合いができる人であれば歓迎。 ・職場探しが問題。 ・ベッタウンとしての有用性はある地域だ。
	女性	・出会いの場がない。 ・結婚しない人が多い。 ・適齢期を過ぎると、結婚を焦らなくなる。	・子育てと仕事の両立は時間的に厳しい。 ・両立は大変だったが、なんとか乗り切ってきた。 ・大学まで出すには、金銭的に大変である。		
高齢者	男性	・相手を探せない。 ・結婚世話役が必要（世話役おばさん）	・子供達が忙しいから、孫の世話に協力。 ・子供の声が聞こえる環境が欲しい。 ・子供を育てるには自然環境が良い ・孫は生きがいが、来て嬉し、帰って嬉し。	・農業では、食べていけない。 ・林業の活性化が必要	・若い人の増加を希望する。 ・できるだけ多くの人に来て欲しい。 ・移住者が希望すれば、相談に乗りたい。 ・手伝うことがあれば、手伝いたい。
	女性			・鳥獣被害が多くて農産物生産を止めてしまう農家が多い	

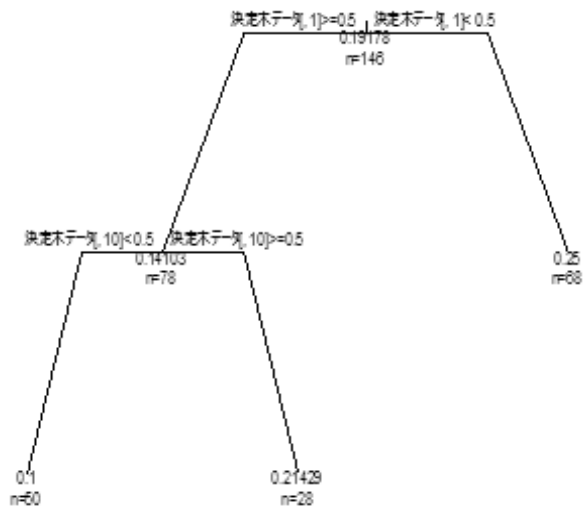


図 18 20 代男性の雇用

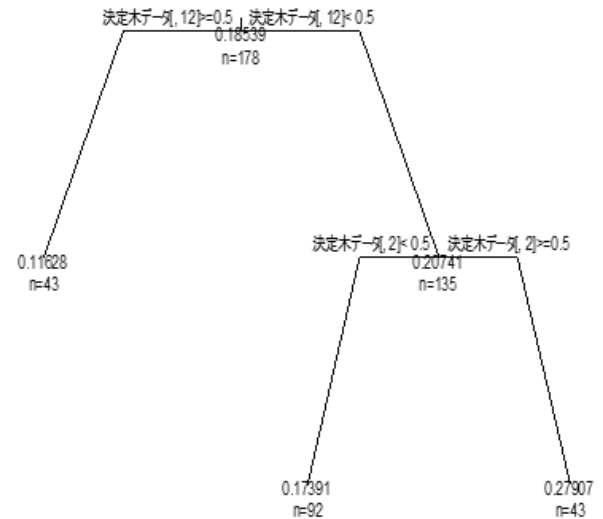


図 19 20 代女性が希望する雇用

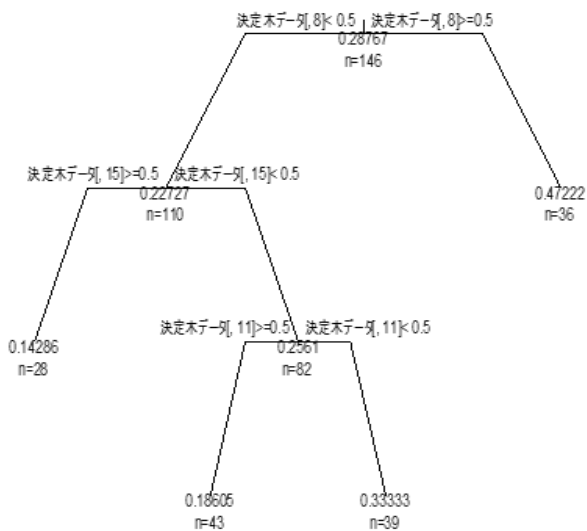


図 20 30 代男性が希望する雇用

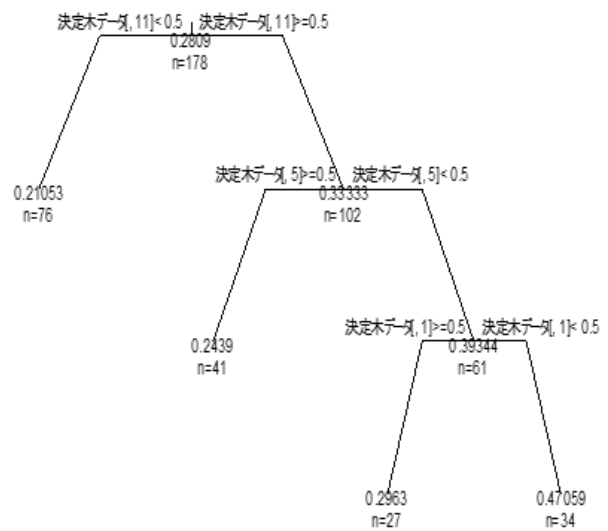


図 21 30 代女性が希望する雇用

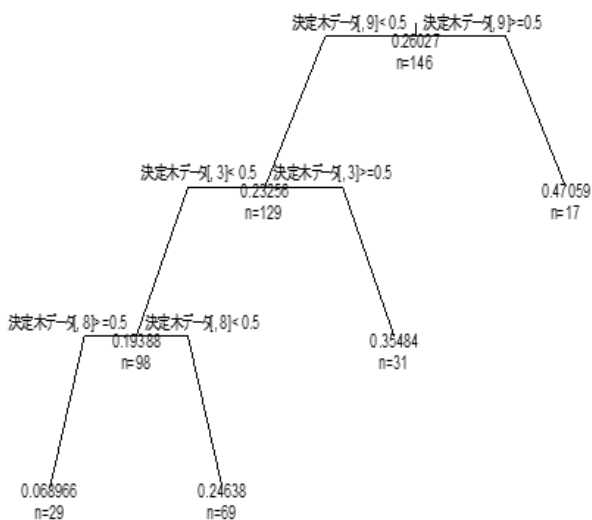


図 22 40 代男性が希望する雇用

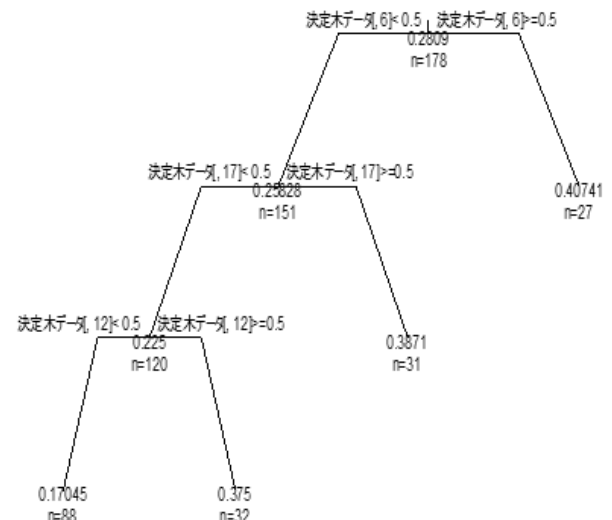


図 23 40 代女性が希望する雇用

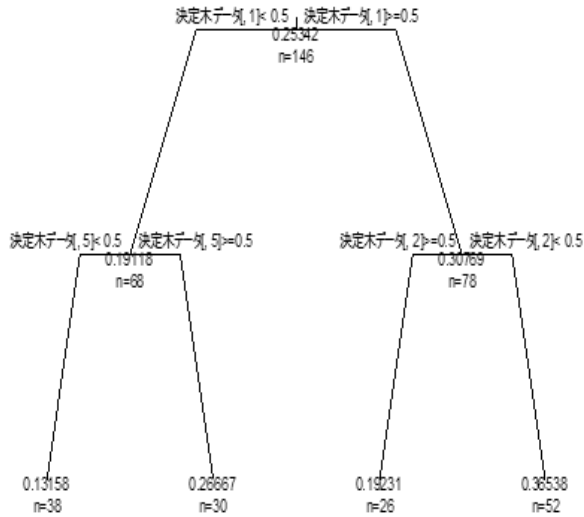


図 24 50 代男性が希望する雇用

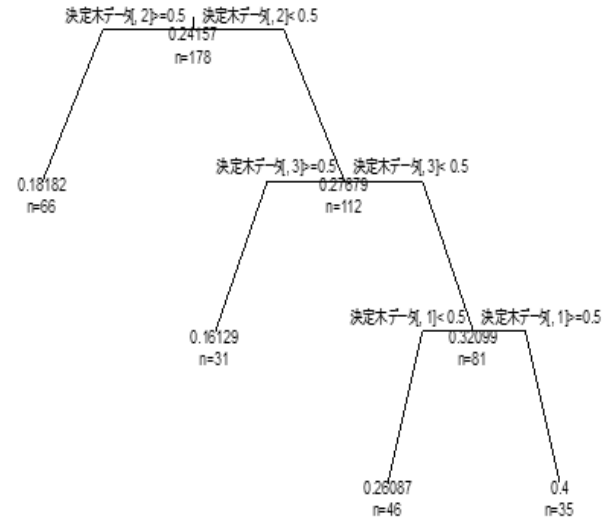


図 25 50 代女性が希望する雇用

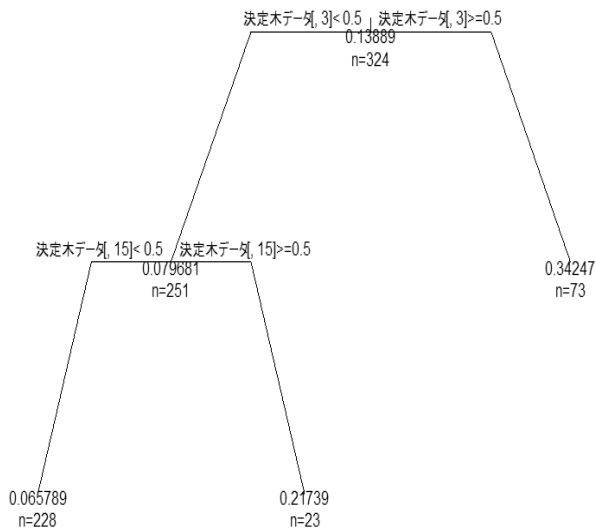


図 26 鏡野町出身地者の傾向

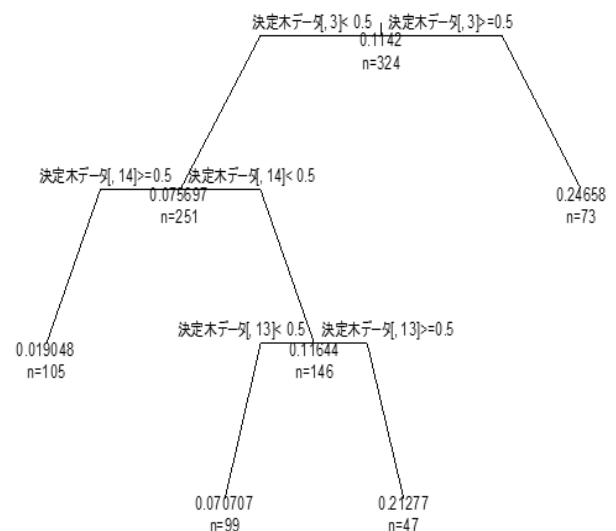


図 27 周辺域の出身者の傾向

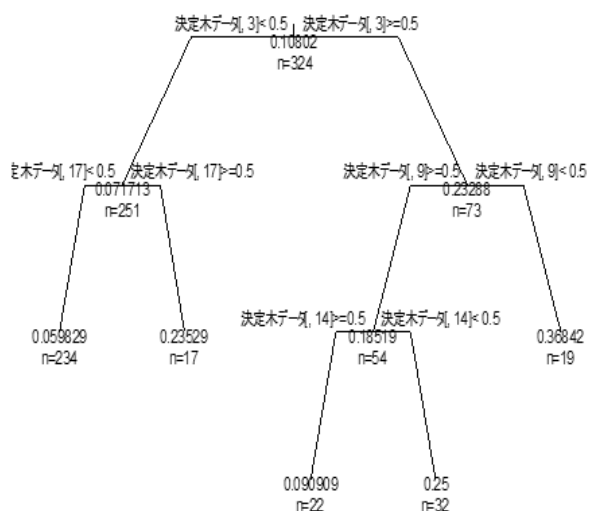


図 28 岡山県内 (地元・周辺域以外) 出身者の傾向

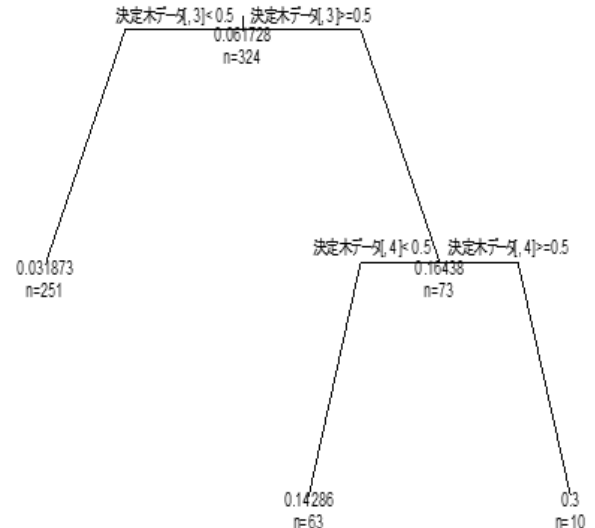


図 29 岡山県外出身の傾向

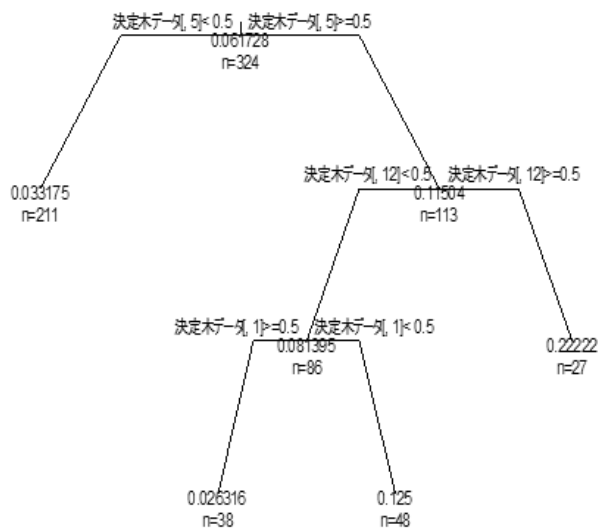


図 30 岡山県外出身者の傾向

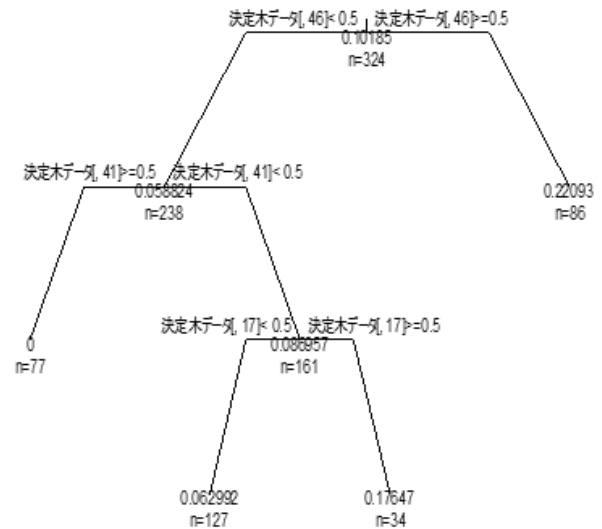


図 31 生活課題

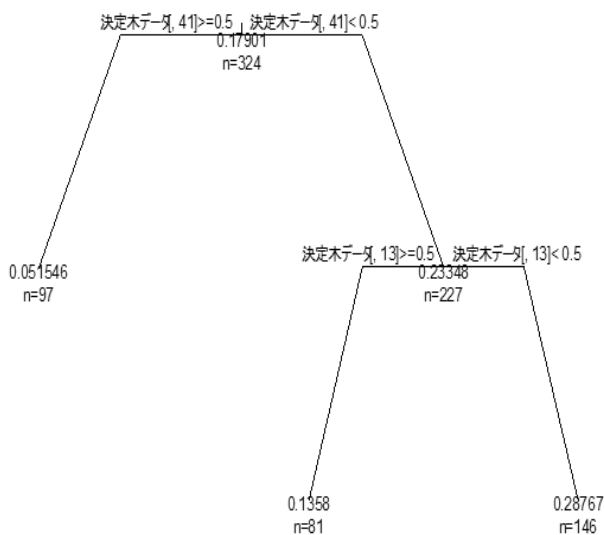


図 32 生活課題（既婚・子供なし）

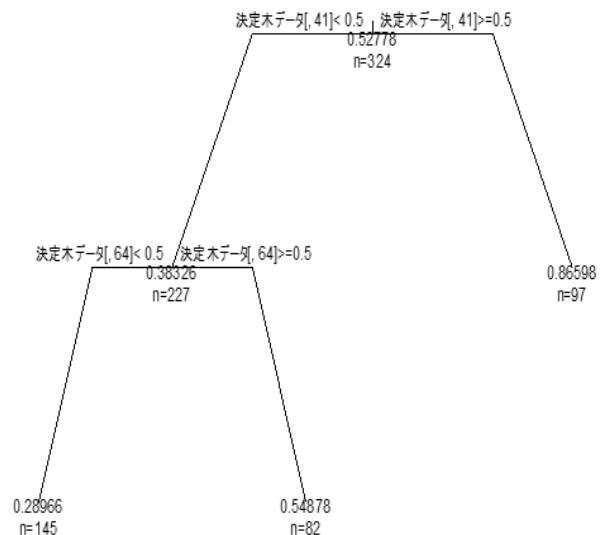


図 33 生活課題（既婚・子供有り）